

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
日本電子専門学校		昭和51年9月10日		船山 世界		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人電子学園		昭和38年12月17日		多 忠貴		〒169-8522 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761				
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程		AIシステム科			平成31年文部科学省 認定	—			
学科の目的	機械学習を中心としたAIプログラミング技術およびビッグデータ技術、IoT活用技術に関して実践的な知識と技術を有したエンジニアを育成することを目的とする。									
認定年月日	令和3年3月25日									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技		
	1710時間		510時間		0時間	1200時間	0時間	0時間		
生徒総定員	生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数	総教員数			
140人	154人		28人		4人	2人	6人			
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価						
				■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上を秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、59点以下を不可とする。 成績評価は、試験、平常の成績、成果物等により行う。						
長期休み	■学年始め: 4月 1日 ■夏 季: 8月1日～9月10日 ■冬 季: 12月21日～1月9日 ■春 季: 3月21日～4月6日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件						
				■卒業条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、卒業学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。 卒業条件に該当しない者は、原級留置とする。 ■進級条件 学科の教育課程に定められた必修科目(選択必修科目を含む)のうち、当該学年までに履修しなければならない科目を修得(成績評価が可以上)した者。						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、自宅訪問、保護者連携 電話・メール連絡			課外活動						
				■課外活動の種類 ・体育祭実行委員会 ・学園祭実行委員会 ・新宿警察主催ボランティア活動 ・各種競技大会/コンテスト ■サークル活動: 有						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) ICT業界、AI・ビッグデータ業界、システム開発業界 トヨタ自動車、ドコモ・データコム、ソブラ、ISIDインターテクノロジー、ヤマトシステム開発、GMOペイメントゲートウェイ、ソルクシーズ など ■就職指導内容 キャリアセンターが、業界の求人獲得に努め、合同企業説明会や校内入社試験を実施している。 各クラス担当のキャリアサポーターとクラス担任を中心とした、組織的な学生指導体制による就職指導を行っている。			主な学修成果(資格・検定等)※3						
	■卒業者数 : 74 人									
	■就職希望者数 : 69 人									
	■就職者数 : 69 人									
	■就職率 : 100 %									
	■卒業者に占める就職者の割合 : 93 %									
■その他 ・進学者数: 1人			■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)							
(令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)										
						資格・検定名		種	受験者数	合格者数
						Oracle認定Javaプログラマ SE 11, Silver		③	53人	50人
						Oracle認定Javaプログラマ SE 11, Gold		③	4人	4人
						Python3エンジニア認定基礎試験		③	27人	23人
						統計検定3級		③	7人	3人
								※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)		
								■自由記述欄 ・にいがたデジコングランプリ2021 オープンデータ活用企画部門 優秀賞、奨励賞 ・第2回ナノコン応用コンテスト トリリオンノード特別賞、奨励賞		
中途退学の現状	■中途退学者 19 名 令和3年4月1日時点において、在学者168名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者149名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学習上の理由、健康上の理由			■中退率 11 %						
	■中退防止・中退者支援のための取組 担任制、キャリアセンターサポート体制、新入生準備教育、学習目標設定・管理、個人面談、父母等連携、出席管理、学生相談、カウンセリング、自宅訪問									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・電子学園特別奨学生制度(本校専願者で、学業・人物共に優秀であり、就学に際して経済的事情を有する方を対象) ・成績特待生制度(本校専願者で、高等学校進学用調査書の評定平均が本校の基準を満たす方を対象) ・試験特待生制度(本校専願者の方が対象) ・資格特待生制度(本校専願者で、本校指定の資格を取得している方が対象) ・美術特待生制度(本校専願者で、本校指定の作品を提出できる方が対象) ・課外活動特待生(本校専願者で、高等学校から課外活動に対する推薦を受けられる方が対象) ・親族入学優遇制度(入学者の親族が、電子学園の在校生または卒業生である方が対象)									

第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構 平成30年3月31日（令和4年度再受審予定） http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation.html
当該学科の ホームページ URL	https://www.jec.ac.jp/course/ai/ca/

（留意事項）

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
- ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
- ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決裁で決定する。
- ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。

上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	①
古川 武利	富士インフォックス・ネット株式会社 業務ソリューション事業部 サブマネージャー	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日	③
船山 世界	日本電子専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	
杉浦 敦司	日本電子専門学校 副校長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	
大川 晃一	日本電子専門学校 エンジニア教育 部長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	
高橋 陽介	日本電子専門学校 学事部 部長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	
笠原 芳典	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	
福田 竜郎	日本電子専門学校 AIシステム科 学科長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時(実績))

第1回 令和3年9月14日 10:00～12:00 開催

第2回 令和4年3月1日 10:00～12:00 開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【議題1】

1年次前期科目「HTML5&CSS」について

「HTML5&CSS」では、基本的なHTML要素とCSSを教えているので、授業時間の制限から主要なレイアウト、CSSフレームワークを少しずつふれる程度になっている。現在のWebアプリケーション開発のUIで主流となっているレイアウトやCSSフレームワークについてご教示頂きたい。

【意見】

Materialize、Bootstrap、Ant Designの案件が多い。JavaScriptの知識が必要なく、簡単に使用できるものが良い。

【活用】

学科内で検討した結果、2022年度新入生のカリキュラムの「HTML5&CSS」では、フレームワークとしてBootstrapを採用することにした。

【議題2】

2年次前期科目「ITストラテジ」について

卒業研究および就職後のことを見据えて、グループワークを通して学生のプレゼンテーション力やドキュメント作成の力を向上する仕掛けをカリキュラム内に含めたいと考えている。令和4年度カリキュラムからはグループワークを中心とする科目の設置か、2年次前期科目「ITストラテジ」にグループワークを多く取り入れるのかを検討しているが、教員数および時間の制約から「ITストラテジ」の内容を変更することが現実的である。既存のシラバスから幾つかトピックを削除する必要があると考えている。

【意見】

- ・IT業界・企業に対する知見を広げるためにも、業界について調査し業界ごとの違いを知るという取り組みも良いのではないかと。
- ・「経営戦略」のトピックは除いても良いのでは。
- ・データガバナンスから広げるほうが学生にとってよいのでは。現場ではDXの文脈でデータガバナンスの設計から、業務フローと紐付けると学びやすいと思う。ビジネスモデルを見ていくとITはすごく面白い。

【活用】

2022年度新入生のカリキュラムより、「ITストラテジ」では経営戦略に関するトピックは削除する予定。ご提案いただいた業界を知る為仕掛けや学習内容の活用やビジネスモデルについて触れる内容にする予定である。具体的には現在、非常勤講師と検討中である。

【議題3】

文章作成技法について

AIシステム科カリキュラムの幾つかの科目においてレポート形式の提出課題があるが年々教員からの訂正箇所が増えてきている。そこで、文章作成技法を科目として設置または卒業研究の一部で講義を実施することを検討している。そこで、委員の皆様から新入社員が作成する日報や仕様書などのドキュメントを見た経験などを踏まえ、教えた方がよいことやトピック、文章作成技法の科目設置自体に関するご意見をご教示頂きたい。

【意見】

- ・社内では頻出の不適切な文章の“あるある集”を作成している。
- ・文章作成の技法については、科目として独立させるのではなくドキュメント作成時に教えてゆく方がよいと思う。

【活用】

トライアルとして、2022年度前期から現2年生の卒業研究の企画資料の作成指導を行っている。ここで、学生が間違えやすい・勘違いしやすい点を抽出している。この結果をもとにコマシラバスに落とし込む。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

AI技術およびビッグデータ技術を有したAIエンジニアを育成するため、AIシステム開発企業と連携し、Pythonを使ったAIプログラミング技術やAIシステムの最新動向に関わる指導を受け、最新のAI技術を身に付けることを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

AIシステム開発に携わっている現役のAIエンジニアより、PythonによるAIシステム開発の構築手法及びビッグデータの活用方法について学び、卒業研究に向けたAIシステムのアイデアを出し合うグループワークを行う。各グループには今日におけるAIシステム開発に有効な技術・知識の習得を目指す。また、作成した企画書を通して指導を行い、最後は評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
データマイニング	ビジネスデータの統計解析手法について学びます。解析手法としては、相関分析、回帰分析、頻出パターン抽出などについて学びます。	テクノブレイブ株式会社
AIプログラミング I	Python基本文法、代表的な標準ライブラリ、AIプログラミングの基本となる外部ライブラリ（NumPy、Matplotlib、SciPyなど）の基本事項について学びます。	テクノブレイブ株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係 (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 学校関係者評価委員会の分野別分科会、ならびに教育課程編成委員会の意見や検討内容の他、AIシステム開発業界の動向をもとに、現在教員に不足している知識、技術、技能に関する研修や、教育的資質に関する研修を研修規定に則って実施する。 現在は、AIシステム開発業界ならびにITに特化した企業が主催する研修に参加しているが、今後はAIシステム開発企業や団体から講師を招き、最新の技術・知識を習得するための研修を計画・受講し、授業への展開やオリジナル教材等にも反映させることを基本方針とする。 (2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「「エッジAIエンジニア教育」オンラインプレセミナー」(連携企業等:日本システム開発株式会社) 期間:令和3年9月4日 対象:学科教員 内容:AI活用においてエッジAIの需要が急速に高まっています。リソースが限られたエッジデバイス上で実用的な速度でAI推論が可能になってきたことも、エッジAI市場が拡大している理由の一つとして挙げられます。その一方で、エッジAIについては専門的な分野であることからエンジニアが不足しているという課題もあります。本エッジAIセミナーでは、深層学習・画像認識における基本的な知識から、エッジでAIモデル推論を行う技術まで、幅広い知識をカバーしています。 研修名「みんなのKaggle講座 -Pythonのコードと共にコンパクトに学ぶKaggleの始め方-」(連携企業等:Udemy) 期間:令和3年3月22日 対象:学科教員 内容:データに関する課題を競うプラットフォームKaggleで、機械学習、データサイエンスを実践しましょう。理論よりも体験を重視し、Kaggleの様々なテクニックを学んでいきます。PythonとGoogle Colaboratoryを使用します。 ②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「教授法研修」(連携企業等:株式会社ビーフォーシー) 期間:令和3年8月2・5・6日 対象:新任教員 内容:教授法の重要性の理解に始まり、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付けた上で、独自の戦略を立てられるようになることを目標とする。 研修名「インストラクショナルデザイン研修」(連携企業等:株式会社ウチダ人材開発センタ) 期間:令和3年8月3・4日 対象:新任教員 内容:授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。 研修名「教授力向上研修」(連携企業等:株式会社 JOEN パートナース) 期間:令和3年8月17日 対象:全教員 内容:学生へ効果的に伝えるために、対面授業とオンライン授業の両面で活用できる資料作成の方法と話し方のポイントを修得する。 研修名「教授力向上研修(ComTIA CTT+)」(連携企業等:株式会社ウチダ人材開発センタ) 期間:令和3年10月28～29日、12月27～28日 対象:中堅教員 内容:ComTIA CTT+に準拠し、インストラクションに関する学び(授業力強化)と資格取得を目的とした研修。 (3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「DX実践 データサイエンス活用コース」(連携企業等:アイラーニング) 期間:令和5年1月15日 対象:学科教員 内容:ビジネスパーソンとして、データ分析に必要な統計、データ加工・可視化、課題から逆算した仮説検証のためのツールを用いた実装、分析結果の解釈・レポートを演習形式で学びます。 研修名「ゲームを作って学ぶブロックチェーンの分散アプリケーション開発」(連携企業等:アイラーニング) 期間:令和5年1月10日 対象:学科教員 内容:ブロックチェーンに興味があるけれども、どこから始めたらいいか迷っていますか? ゲームは好きですか? そうであれば、イーサリウム・ブロックチェーン、Solidity、JavaScriptを使って簡単なゲームを作り、ブロックチェーン、分散アプリケーション、スマートコントラクト、イーサリウムの基本を学びます。 ②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「教授法研修」(連携企業等:株式会社ビーフォーシー) 期間:令和4年7月29日・8月4日 対象:新任教員 内容:教授法の重要性の理解に始まり、対人スキルとして「話法」のスキルを身に付けた上で、独自の戦略を立てられるようになることを目標とする。
--

研修名「インストラクショナルデザイン研修」(連携企業等:株式会社ウチダ人材開発センタ)
 期間:令和4年8月2・5日 対象:新人教員
 内容:授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。

研修名「教授力向上研修(ComTIA CTT+)」(連携企業等:株式会社ウチダ人材開発センタ)
 期間:令和4年10月・12月 対象:中堅教員
 内容:ComTIA CTT+に準拠し、インストラクションに関する学び(授業力強化)と資格取得を目的とした研修。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、地域住民等とともに、ICT企業を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会という。)を組織する。評価委員会では、本校の自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況やAIシステム科の教育状況、目標達成度、進路の状況、卒業生の産業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価を受け、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、AIシステム科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標
(2)学校運営	運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化
(3)教育活動	教育目標・教育人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導体制
(4)学修成果	就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善
(5)学生支援	就職指導体制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、父母会、卒業生支援、関連分野と業界関係
(6)教育環境	施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開
(8)財務	中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開
(9)法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開
(10)社会貢献・地域貢献	学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援
(11)国際交流	留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教育に付随する三つのポリシーを公開し、本校の関係者(在学生、保護者、入学検討者、関連企業など)へ周知を行うという点が十分ではないとの指摘事項に対して、令和3年度中に下記の対応を行った。
 ・本校のオフィシャルWebサイトにて、三つのポリシー(全学科共通、学科別)を公開し、本校の教育に関心を持つ方への周知を図った。
 ・令和4年度入学者向けの「学園生活ガイド(全学科共通)」と「学科ガイド(学科別)」に、三つのポリシーを掲載した上で全学生に配布をし周知を図った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
井沢 祐	株式会社ファンコーポレーション	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日	企業
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日	企業
鈴木 周祐	株式会社ぴえろ	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	企業
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	企業
佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日	企業
渡辺 登	合同会社ワタナベ技研	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日	企業
伊藤 好宏	JTP株式会社	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	企業
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日	業界団体
篠原 たかこ	公益財団法人画像情報教育振興協会	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日	業界団体
森 まり子	東京商工会議所 新宿支部	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	業界団体
原 洋一	一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日	業界団体
米井 翔	一般社団法人 組込みシステム技術協会	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日	業界団体
西田 政偉	株式会社ウィザス	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	高等学校
品田 健	聖徳学園中学校高等学校	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	高等学校
会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	日本語学校
小澤 博太郎	百人町西町会	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日	地域住民
谷 伸城	株式会社アプリケーション プロダクト	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日	卒業生
中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	令和3年5月1日～ 令和5年4月30日	卒業生
前田 かざね		令和3年5月1日～ 令和5年3月31日	保護者
高野 優美		令和3年5月1日～ 令和5年3月31日	保護者
高橋 晶子		令和4年5月1日～ 令和6年3月31日	保護者
大山 宗良		令和4年5月1日～ 令和6年3月31日	保護者
山崎 ひかる		令和3年5月1日～ 令和5年3月31日	在校生
笹原 萌絵		令和3年5月1日～ 令和5年3月31日	在校生
岡本 沙織		令和3年5月1日～ 令和6年3月31日	在校生
武藤 遼河		令和4年5月1日～ 令和6年3月31日	在校生
宮下 好葉		令和4年5月1日～ 令和6年3月31日	在校生
水山 颯香		令和4年5月1日～ 令和6年3月31日	在校生
森 碧大		令和4年5月1日～ 令和6年3月31日	在校生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページで公表(毎年10月1日に更新)

URL:<http://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment.html>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

理念・育成人材像といった教育的目標から施設設備・財務状況といった学校運営に至るまでの情報をホームページや入学案内書などの冊子に掲載するとともに、AIシステム科の教育成果として、学園祭の学科展示などに広く来場を促すなど、在校生・保護者、高等学校、卒業生が活躍する企業・業界、学校近隣の住民など、関係者の理解を深め連携及び協力の促進に資するために、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	本校について、教育理念、校長名、沿革
(2)各学科等の教育	学科紹介、カリキュラム、時間割
(3)教職員	組織図、教職員人数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育の仕組み、キャリア教育、産学連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、エクステンションプログラム、施設
(6)学生の生活支援	就職サポート、学生寮
(7)学生納付金・修学支援	学費サポート、納付金・時期、独自の奨学金制度
(8)学校の財務	貸借対照表、資金・消費収支計算書
(9)学校評価	自己点検評価、学校関係者評価、第三者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ、広報誌等の刊行物、その他(授業成果発表会、進級・卒業制作発表会、学科ニュース)

<https://www.jec.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 AIシステム科) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピュータリテラシー	コンピュータの基本的知識について学びます。具体的には、コンピュータアーキテクチャと各種装置の役割、オペレーティングシステムの基本機能について学びます。	1前	60				○	○			○	
○			ソフトウェア工学概論	ソフトウェア工学の基礎について学びます。具体的には、共通フレームの役割、SLCPとそのモデル、各プロセスの基本アクション、ソフトウェアの品質について学びます。	1後	30		○			○			○	
○			ITストラテジ	企業に関する基礎知識およびシステム戦略における情報戦略について学びます。具体的には、企業活動と法務、経営戦略と技術戦略、システム戦略について学びます。	2前	30		○			○			○	
○			HTML5&CSS	マークアップ言語の歴史と発展を踏まえた上で、最も基本的なWebページ表現技術であるHTML5とCSS3の文法について学びます。合わせて、CSSフレームワークを用いたWebサイトの構築方法についても学びます。	1前	60				○	○			○	
○			Java I	Javaによるプログラム作成から実行までの手順、Javaの基本文法（変数、各種演算子、フロー制御、配列、クラス・インターフェイス、継承、パッケージ、例外）について学びます。	1前	180		△		○	○			○	
○			Java II	Java APIに含まれる主要なライブラリの用途と使用方法について学びます。具体的には、基本パッケージ、ファイル入出力、ストリーム、ラムダ式などについて扱います。	1後	60		△		○	○			○	
○			クライアントサイドプログラミングⅠ	クライアントサイドプログラミング技術としてJavaScriptを取りあげ、JavaScriptの基本文法からクライアントサイドの実装方法について学びます。	1後	30				○	○			○	
○			クライアントサイドプログラミングⅡ	JavaScriptの各種フレームワーク／ライブラリを用いたWebアプリケーションのクライアントサイドの実装方法について学びます。合わせて、Canvas API、DOMプログラミング、JSONデータの取り扱い方法についても学びます。	2前	60		△		○	○			○	

○		サーバサイドプログラミングⅠ	サーバサイドプログラミング技術としてJava EEを取りあげ、Webアプリケーション実装の基礎について学びます。具体的には、サーブレット・JSPの作成方法、配備方法について学びます。	1 後	60		△	○	○	○				
○		サーバサイドプログラミングⅡ	サーバサイドプログラミング技術としてJava EEを取りあげ、永続化システムの必要性とその利用方法まで扱います。具体的には、JDBCの役割、JDBC API、DAOの役割について学びます。	2 前	30			○	○	○				
○		データベースⅠ	データとモデルの関係、RDBMSの一般的なアーキテクチャ、主要なRDBMSの特徴を踏まえた上で、SQLによる基本演算（射影、選択、結合）について学びます。	1 前	60		△	○	○			○		
○		データベースⅡ	SQLによる副問い合わせ、トランザクション制御、DDLについて学びます。更に、リレーショナルモデルと半構造化モデルを対比させながら、各種データのモデルについても学びます。	1 後	30			○	○			○		
○		オブジェクト指向分析・設計Ⅰ	ソフトウェアのライフサイクルおよびソフトウェア開発プロセスモデルを確認した上で、ロバストネス分析、ICONIXプロセスについて学びます。合わせて、ロバストネス図やUMLについても学びます。	2 前	30		○		○	○				
○		オブジェクト指向分析・設計Ⅱ	オブジェクト指向設計の原則を軸にソフトウェアパターン（アーキテクチャパターン、デザインパターン、実装パターン）について学びます。また、Spring Framework、Hibernateを利用し、依存性注入、O/Rマッピングについて学びます。	2 後	60		△	○	○			○		
○		人工知能概論	人工知能の歴史と発展を確認しながら、人工知能が対象としてきた問題領域、問題解決とその手法、フレーム問題、人工知能とビッグデータやIoTとの関係、各産業への利用事例について学びます。	1 前	30		○		○			○		
○		人工知能特論	人工知能を取り巻く最新の動向について学びます。例えば、最新の機械学習の理論、人工知能の活用事例、GPUなどのハードウェアの話題、などを取り上げます。	2 後	30		○		○			○		
○		AIアルゴリズム	AIに関連するデータ構造やアルゴリズム（整列アルゴリズム、探索アルゴリズム、グラフなど）について学びます。具体的に実装することで代表的なアルゴリズムの理解を深めます。	1 前	30		○		○			○		
○		AIプログラミングⅠ	Python基本文法、代表的な標準ライブラリ、AIプログラミングの基本となる外部ライブラリ（NumPy、Matplotlib、SciPyなど）の基本事項について学びます。	1 後	120		△	○	○			○		○
○		AIプログラミングⅡ	代表的な外部ライブラリ・API（TensorFlow、Keras、scikit-learnなど）を使用して、人工ニューラルネットワークの実装、学習に関するテクニックについて学びます。	2 前	120		△	○	○			○		

○		AIセキュリティ	情報セキュリティを維持するための基本技術（暗号化、電子署名、電子証明書など）について学びます。合わせて、人工知能を利用した情報セキュリティの脅威についても学びます。	2後	30	○		○		○			
○		機械学習Ⅰ	現在の機械学習で有効な人工ニューラルネットワークについて学びます。パーセプトロンと学習手法をベースにして、多層ニューラルネットワーク、畳み込みニューラルネットワークなどについて学びます。	1後	60	○		△	○		○		
○		機械学習Ⅱ	教師あり学習のうち分類問題を取りあげ、分類決定木、ナイーブベイズ、サポートベクターマシンの基本構造、最適化方法について学びます。	2前	60	○		△	○		○		
○		機械学習Ⅲ	教師なし学習の代表的な問題設定であるクラスタリングと次元削減について学びます。クラスタリングの手法としてk-means法と混合正規分布、次元削減の手法として主成分分析について学びます。	2後	60	○		△	○		○		
○		統計学Ⅰ	統計学の歴史と発展および基礎数学を踏まえた上で、記述統計学について学びます。低次元データを用いながら、データを可視化する各グラフ、各種代表値の定義と意味、確率論の基礎について学びます。	1前	30	○			○		○		
○		統計学Ⅱ	推測統計学について学びます。具体的には、大数の法則、中心極限定理、母集団とサンプリング、推定、検定について学びます。	1後	30	○			○		○		
○		エッジコンピューティングⅠ	今日におけるIoTシステムの構成を踏まえた上で、IoTデバイスの設定やセンシングしたデータの送受信方法について学びます。	2前	30				○	○		○	
○		エッジコンピューティングⅡ	センシングしたデータを収集・処理するプログラミングについて学びます。IoTデバイスを活用したシステムの開発演習を行います。	2後	30				○	○		○	
○		クラウドコンピューティング	クラウドとは何かおよびクラウドの構成を踏まえた上で、クラウドサービスを利用した環境構築の方法、代表的な機械学習アルゴリズムの利用方法、AIシステムへの活用方法について学びます。	2後	30	○				○		○	
○		データマイニング	ビジネスデータの統計解析手法について学びます。解析手法としては、相関分析、回帰分析、頻出パターン抽出などについて学びます。	2前	60	△			○	○		○	○
○		卒業研究	2年間の集大成として各自・各グループでテーマを設定し、研究・制作活動を行います。卒業論文を提出し、プレゼンテーションを行います。	2後	150	△			○	○		○	

○			就職活動リテラシー	就職活動の過程で避けて通ることができない書類審査や面接に備え、IT業界全体の構造・職種・業務内容およびその他必要な事前準備（エントリーシート・履歴書の作成）について学びます。	1 後	30		○			○			○	
合計				35科目	1710単位時間										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件 試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で「可」以上 (留意事項)		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。